

平成26年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- (1) 内容豊かな授業の創造に取り組み、自ら学ぶ意欲を育てる。
- (2) 校種間連携を推進するとともに、地域に開かれた学校づくりを推進する。
- (3) 基本的な生活習慣の確立に取り組む。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 校種間連携の取組を促進し、滑らかな成長を推進する	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
一人1回の公開授業の実施や研究授業(学年、教科)を行うことにより、授業の活性化を図り、数学、英語の習熟度に応じた授業を定着させる。また、特別支援教育の充実に向け、特別支援コーディネーターを中心とした、個に応じた情報交換と全教職員の関わりを重視する。校種間連携においては、昨年度同様に、校区内の小学校の1日体験入学や、校種間の授業参観や児童生徒の情報交換はもちろんのこと、長期休業日を利用して、合同研修会を実施する。	・家庭学習においては教師個人の取組で終わっていることが多い。 ・2中にまたがる小学校への対応が難しい場面がある。(1日中学校体験など。)	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、良好な人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、問題行動の未然防止を図る (3) 相談体制充実の取組を促進し、不適応行動への早期対応及び長期欠席の改善を図る (4) 進路指導充実の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
オープンスクールや土曜参観を利用して、副読本を用いて道徳の授業を公開することにより道徳への意識を高める。また、問題行動を繰り返す生徒へ教職員が関わり共通理解することにより問題行動を未然に防ぐ。教育相談を充実するために、今以上にスクールカウンセラー、訪問指導員、保護者との意見交換を行うことにより、不登校生徒を一人でも少なくしていきたい。進路指導においては、1年生より計画的に取り組み、2年生でのトライやる・ウィークで職業間や社会的自立に必要な能力を育成し、3年生では将来を見据えた進路指導を行う。	・問題行動を繰り返す生徒への今以上の個に応じた指導方法の確立が必要である。 ・学年が進級する毎に、不登校生徒への支援しっかりと行えていない。 ・トライやる・ウィークでの事前指導の取り組みについて総合の時間などでの指導が不足が気になる。	

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	3
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る			
取組とその成果	課題と改善策		
生徒を中心としたお弁当づくりなどを行うことにより、食についての意識の高揚に努める。また、多種多様のクラブ活動を実施することにより運動に親しむ習慣を身に付けさせる。	・より一層の食育の充実を図っていききたい。		

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.5	2.5
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る			
取組とその成果	課題と改善策		
防災マニュアルの確立と火災、津波を想定した防災訓練を、地域とともに実施し「自分の命は自分で守る」と言う、命の大切さを考えさせる。また、関係機関と連携し交通安全教室(自転車)を実施することにより、交通事故防止の規範意識を高める。	・防災意識の高揚について今以上に地域との連携を図りたい。 ・生徒一人ひとりの防災訓練での危機管理意識が低い。 ・交通安全について、学校外での交通ルールへの規範意識が薄い。		

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.5	3.5
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る (3) 学校評価活用の取組を促進し、学校運営の改善と発展を図る			
取組とその成果	課題と改善策		
オープンスクール、土曜参観、地域での美化活動、生徒と教職員が一つになって行う「おはよう運動」「学校だより」「ホームページ」の配信等を通じて、学校の様子を地域に知ってもらう事により、今以上に地域から愛され、信頼される開かれた学校づくりができる。	・教員の年齢構成が、若手教員とベテラン教員に二分化しているため、主要な校務分掌担当者となることが多いので、失敗を恐れず積極的な活動をできるように促したい。 ・地域から愛され信頼される学校づくりをめざして、新しいアイデアを教職員とともに創りあげたい。		

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	2.5
取組とその成果	課題と改善策		
学校だより、ホームページや保護者会などで、教育目標を示したり働きかけたりする。また、各行事においては、学校目標を意識し取り組むことにより、保護者や地域の協力や理解を得る。指導の充実には、振り返りと改善が必要である。常に、指導後の改善策を考慮するように啓発し意欲向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標の一つである「自ら学び続ける意欲と力を育てる」ができておらず、学力向上に繋がっていない。朝学習・宿題の徹底とともに、チャレンジ学習などを通して、自学できる生徒を育てたい。 ・若手教員が多く、リーダー、ミドルリーダーの不足のため新しい動きに繋がらない。このため思い切った若手登用を図る。 		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3
取組とその成果	課題と改善策		
研究推進委員会を中心に、共通理解や方策を検討することにより、職員の協働体制の意識が高まった。また、基礎基本を定着させ、わかる授業を展開するため、校内での公開授業を行うことにより研究テーマに対する気運が高まった。	<ul style="list-style-type: none"> ・若い教師の授業力の向上と、研修推進を中心とした中身の濃い授業研究を推進していく必要がある。 		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		